



1. 表通りに面する全景
2. 展示室全景
3. 常設展示の茶室



2



3



日建連表彰2022



第63回BCS賞

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館

選定理由 【選考委員】
野城智也・嶋海雅人・尾崎 勝

金沢は藩政期から現在まで戦禍を免れてきた稀有なまちであり、扇状地の発展とそれを静かに見守る両岸の段丘地という「建築文化の重層性」を守り続けて今日に至っている。

この地を生家とする谷口吉郎が、こうした得難いまちに「保存と開発の調和」を唱え、日本初の伝統環境保存条例に尽力したことを市は大いに歓迎した。後年その生家が寄贈された時、そこが犀川沿いの保存地区の入口にあたり、保存と開発の間地点にあるという歴史的な重層性と、段丘の上下をつなぐ遊歩道の都市的回遊性から、この地に市が日本初の公立建築ミュージアムの建設を決定したことは、市の持続可能な発展にとつても大きな成果と言える。そのミュージアムでは、谷口吉郎

一八三六(一八三六)が、下端を庇のようにみせ、その下の視界を開いて「賑わい」を寺町通りと共有し、室内においては「簾」越しの柔らかな光と熱が居住域空調によって爽やかさを運んでいる。後者の常設展示では、数寄屋建築の広間の深く広い庇と窓先の水盤を扇状地の「歴史性」に開き、その庇は上階から軽快に吊って水盤には柱を立てず、調光制御システム(DALI)で省エネ管理を行いながら室内灯の窓ガラスへの反射にも配慮して、崖地の植栽帯を映し込む水景が窓越しに鮮やかである。「庇と簾」は「和の省エネ」として、その開口は「都市と

の数寄屋建築、迎賓館赤坂離宮和風別館「游心亭」の広間と茶室を「展示品」として忠実に再現し、和室の畳目から水盤の石目地までを寸分違わず揃えるという職人技の一方で、外装はこれとは対比的に花崗岩乾式後張りの簡潔な「造形」としながら、実は設計者の厳しい品質要求に施工者が応えたものでもあった。伝統建築の展示は「おもてなし」の「造形」であり、また外装の現代的な造形は風致地区を先導する将来像の「展示品」でもあり、過去から未来へと高品位の建築文化を継承するものにほかならない。

段丘上の構成を特徴付けているのは、寺町台寺院群に正対する一階ラウンジのモダンな開口と、反対の犀川側で金沢城跡を望む二階の数寄屋建築の開口の、新旧の魅力的な「庇」である。前者の外観は、二層吹き抜けの鉄骨造に親和性をもつ繊細なパイプルーバー(アルミパイプ

建築の交歓」として、いずれも伝統的な感性と今日の技術を融合したものであり、企画・設計・施工が一体となって重層的な都市と建築の奥深さを具現化するものである。生家に生まれた少年が、かつての店先や二階の窓辺で雪空を眺めて過ごしたであろうことを想い、伝統を継承しつつ革新を目指す「保存と開発の調和」の根底に郷土愛や建築愛があることに思いを致す時、このミュージアムが、都市と建築の文化を金沢のみならず世界へと発信する拠点となることを確信するのである。

谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 概要

- 所在地 石川県金沢市寺町5-1-18
- 建築主 金沢市
- 設計者 (株)谷口建築設計研究所
- 施工者 清水建設(株)、(株)豊蔵組、(株)双建
- 竣工日 2019年5月31日

- 敷地面積 2,032㎡
- 建築面積 823㎡
- 延床面積 1,570㎡

- 階数 地上2階、地下1階、塔屋1階
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。